



創字 原田 親

No. 1004

2023/9/1

日中友好新聞

発行所  
日本中国友好協会  
〒111-0953  
東京都台東区浅草橋3-2-3  
浅草橋5丁目  
電話 03(5839)3188(代)  
FAX 03(5839)2141  
http://www.jcfa.or.jp  
E-mail:okachu@jicfa.or.jp  
郵 100110-1-2117

日中友好協会  
岡山支部  
〒100-0014  
岡山北区下伊福  
西町1-53 民主会館1F  
TEL/FAX 086(252)1804

日中友好協会  
倉敷支部  
〒712-8031  
倉敷市福部町東3-461-45  
TEL/FAX 086(431)7800

日中友好協会岡山支部ホームページ  
<http://rizhongyouhao.jinaa.net/>  
メールアドレス  
nichuokayama@yahoo.co.jp



# 中国残留孤児は

## どうして生まれたのか？

### 第二回

標記の第二回学習会を、岡輝公民館で行いました。講師は前回と同じく青木康嘉さんです。



わたしは本当に歴史が苦手で、日清戦争と日中戦争が一緒になったののだが、幸いにも同じグループの人たちが賢かったので助かった。

高杉さんについての話は、同じグループの人たちが、高杉さんと親しいようで、どんな人柄なのかなど詳しく教えてくれた。

満蒙開拓少年義勇軍の少年たちの話は、残らずに帰ってきた子たちが、どういうふうにして帰れたのかとか、残留孤児になった友達か帰ってくるときに、どう感じていたのかを知りたいと思った。次の第三回は来年にあるので、参加しようと思う。

○小川涼子さんの感想文です。

8月20日岡輝公民館であったなぜ残留孤児は生まれたのかの第二回に行った。参加者は全員で8人だった。

第二回の今回は、ただ青木先生の話聞くだけでなく、4人ずつのグループに分かれて、レジュメを読んで先生の話を聞いて、グループで話し合っていた。

### 第三回は、

2024年

2月18日(日) 14時

岡輝公民館です

# 太極拳 & 海!



8月6日(日)は朝10時から岡輝公民館で太極拳をやったあと、12時から渋川海水浴場へ行って、海水浴をしたり水族館に行ったりしました。

現在、毎月第1日曜の太極拳の練習会は、練功18法や八段錦、五禽戯などの初心者さんも一緒にできるものや、ヌンチャクや毬子などの道具を使う練習をしています。しっかり運動したあとは、30号線沿いに昔からあるヴェイクトリアというファミレスで

腹ごしらえをして、渋川海水浴場へ行きました。海は、台風が沖繩あたりを流したためか、風が強く、泳ぐ人みんなが岸の近くで西へ西へと流されていました。どこかの子どもが手を放してしまったビーチボールはものすごい勢いで流されて、監視員のお兄さんが「追いかけて」と注意していました。

小川涼子

## 日中平和友好条約締結45周年記念

### 慶祝大会・講演会に参加して

日中友好協会倉敷支部 宇野忠義

8月11日、中国四国地区華僑華人総会主催の西日本地区日中平和友好条約締結45周年記念慶祝大会が、岡山国際交流センターで開催された。

最初に、1978年8月12日、日本と中国は、日中共同声明を踏まえ、主権・領土保全の相互尊重、不可侵、内政不干渉、平等互恵、平和共存等を約定した平和友好条約を両国語でおそかに確認した。

その後、3人の専門家による熱情のこもった講演がなされた。一〇〇人を超える各地、各界からの参加者は大きな拍手で賛同を示し、平和友好運動への新たな決意を示していた。

※裏へ続く

講演の概要は以下の通り。①「平和友好条約は中日両国の基本外交方針となるべき約束―日本は即時「中国包囲網」作りをやめよ」（林伯耀）。日本で生まれ育った林さんは中国人2世であり、関東大震災朝鮮人中国人虐殺一〇〇年犠牲者追悼大会実行委員会共同代表としても活躍されている。米国の軍産複合体が「中国脅威論」をあり、「台湾有事」を作り出そうとし、「日米同盟」でそれに協調している日本政治の動向にも強い懸念を表明した。

②「日本軍性暴力被害女性の尊厳回復に向けて」（石田米子）。中国近現代史の専門家、岡山大学名誉教授の石田さんは、40数回の中国訪問調査によって、山西省における日本軍性暴力の実態を明らかにした。また、放棄された国家賠償ではなく個人の資格による戦争被害の謝罪と賠償請求を求める、人間の尊厳を守り回復する被害者女性の運動の支援者として、88歳の年齢を感じさせないほど熱く語られた。

③「玉野へ強制連行された中国人―史実を学び、平和と友好の懸け橋」（青木康嘉）。近現代研究者の青木さんは、1942年から始まる中国人強制連行の一つである玉野市三井鉱山日比精錬所での強制労働、死亡者の調査、生存者及び家族からの聞き取り調査について報告し、玉野市で継続して行われている慰霊祭についても紹介した。このような歴史的事実についての正確な認識と共通理解の上に友好交流活動を市民レベルで進めていくことの重要性が再確認されました。

### 私の引揚体験(その2)

倉敷9条の会 会員 朝倉 彰子

#### 3. 千金牧場の日々

千金牧場には馬、牛、豚、驢馬、騾馬、アヒルなど多くの動物がゆったりと草を食べていました。美味しい牛乳がたっぷりあって食の細かった私はご飯のかわりに牛乳を飲んで育ちました。

昭和20年(1945年)5月、父は関東軍に現地召集され、戦場へ送られました。母と5月の終わりに生まれた妹を含め、7人の子どもが残されました。

シベリア抑留を解かれ、1946年12月末に帰国した父が話してくれたのですが、戦場に行った父の部隊の人たちはすでにこの戦争の無意味さを知り、中国人を殺す意志はなく、木の影からパンパンと人に当たらないように鉄砲を撃っていたそうです。むしろ恐ろしかったのは軍隊内部での非人間的な制裁だったと言っていました。

撫順中学生だった兄は、援農ということで、学年ごと吉林省の開拓団へ派遣され、8月9日、ソ連軍の侵攻で命からがら撫順へ戻ってきました。そして昭和20(1945年)8月15日、私たち家族はこの牧場で敗戦を迎えました。姉は撫順女学校で、小学四年生だった三番目の姉は、新屯小学校で玉音放送を聞いたと言います。

両親はこの戦争には反対で、治安維持法により何度も捕まったのですが、中国に渡ってからもその姿勢は変わりませんでした。

多くの日本人が中国人に対して威圧的であったのに比べ、両親は中国の人たちと友好的な付き合いをしていました。しかし敗戦と同時に、牧場で働いていた苦力頭を先頭に牧場の家は襲撃されました。それだけ侵略者の日本人に対する恨みは激しかったのだと思います。

牧場の入口には頑丈な鉄の扉があり、施錠して、私たち一家は事なきを得ました。

撫順にソ連軍が侵攻してきました。16歳の姉は髪を切り、男の子の格好をしました。5人の若いソ連兵が牧場にやってきました。多くの日本人の悲惨な体験と違って、略奪のためでなく、暴徒の襲撃から私たちを護衛するためにきてくれたのでした。

長姉の話では、母は牧場の家の屋上に高々と赤い布を掲げました。そしてソ連軍の司令部に出かけて、「私はボルシェビキ、私たちは日本で戦争反対のために闘ってきました。あなたたちは私たち家族を守る義務があります」と交渉、護衛を求めました。たぶん、牧場の動物たちを担保にしたのでしょう。どちらにしても働き手を失った牧場では、動物たちの世話はできません。動物たちは牧場から次々と姿を消していきました。

5人の若いソ連兵は交替で、じゃがいもや黒パン、砂糖など食料も沢山持ってきてくれて私たちは飢えることはありませんでした。

ソ連兵は幼い弟を膝に抱き、「マコト、トキョイコ(誠、東京へ行こう)」と片言の日本語で語りかけ、弟をかわいがってくれました。牧場の地下室ではロシア民謡の歌声が流れ、たびたびレコードをかけダンスを楽しんだりしたこともあったそうです。牧場の中には私たち家族のほか、北の方から逃げてきた青少年義勇軍の人たち、日本軍の敗残兵なども逃げ込んでいました。ソ連兵に守られていた数か月、牧場の中で私たちは穏やかで、むしろ楽しい日々を過ごしました。すこしすっぱい黒パンの味は今でも忘れられません。

ソ連軍が撤退し、八路軍、国府軍の戦闘が激しくなり、牧場も危険になってきたため、私たちは牧場を後にしました。

※ 次号へつづく

#### 岡山県支部連合会総会

とき：10月8日(日)

10時～12時

ところ：岡西公民館

☆岡山支部、倉敷支部、井笠支部準備会の理事の方々にご参加をお願いします。

次回の新聞送作業は9月12日(火)午前10時半から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

池田 犬飼 河井 真田 竹内